

5 月度 ^{例会} _{個人} 山行報告書		報告者	津田廣一	参加メンバー	CL: 津田廣一 津田利栄子
		報告日	8/17		
山 域	九州	山行日	18 年 5 月 21 日 (月)		
山 名	九州の山旅		～5 月 28 日 (月)		

山行目的 九州名峰巡り (花と温泉探訪)

- 《九州の山旅 (18 年 5 月) 結果一覧》
- 5/21 移動 (自宅⇒セントレア⇒福岡空港) & 観光
曇り時々雨 阿蘇 烏帽子岳 (途中まで)
⇒ペンション (泊)
 - 5/22 曇り 阿蘇 中岳、高岳登頂
; (詳細は別紙報告書) 高千穂民宿泊
 - 5/23 雨後曇り 祖母山登山断念、高千穂観光
高千穂神社、高千穂峡、天の岩戸神社
⇒阿蘇くじゅう高原 YH 泊
 - 5/24 晴 祖母山、久住山登頂
; (詳細は別紙報告書) 法華院 山荘泊
 - 5/25 晴 鉾立峠、平治岳登頂
; (詳細は別紙報告書) 湯布院 YH 泊
 - 5/26 曇り 由布岳西峰断念、東峰登頂
; (詳細は別紙報告書) 湯布院 泊
 - 5/27 晴 英彦山登頂
; (詳細は別紙報告書)
⇒博多ホテル泊
 - 5/28 移動 (福岡空港⇒セントレア⇒自宅)

配布先
総会参加数
山行: 1
リーダー
原紙:
会事務局



〈山行報告〉九州の花“ミヤマキリシマ”と温泉を楽しむ事を目的に、5 座を計画。ミヤマキリシマと温泉は、毎日楽しむ事ができた。山は、天候等の関係もあり、狙った山・コースとは違ったものになったが、満足のいく山旅ができたと思っている。阿蘇・祖母・久住の百名山、由布岳東峰、英彦山も登る事ができ、ミヤマキリシマはラッキーにも満開の平治岳に遭遇。移動日の阿蘇の烏帽子岳や由布岳でもミヤマキリシマを満喫できた。毎日、違った温泉にも入り、最高の山旅となった。



確認
(リーダー)
津
18/08/17
田
作成
(報告者)
津
18/08/17
田

〈リーダー所見〉
九州の百名山の残り 3 座 (阿蘇山、祖母山、九重山) を狙い、ミヤマキリシマの季節に行きたいと以前から思っていた。妻を誘っての山旅であったが、妻も喜んでいたので成功であった。九州最高峰の九重中岳や大船、由布岳の西峰等、残さざるを得なかった山々は、この次の楽しみとしよう。1 週間の無事な山旅に感謝、満足です。



①阿蘇山（中岳・高岳）登山報告 5/22（火） 曇り

■ルート；火口西 P →（砂千里）→中岳→高岳→火口西 P

メンバー；津田廣一・利栄子

<コースタイム>

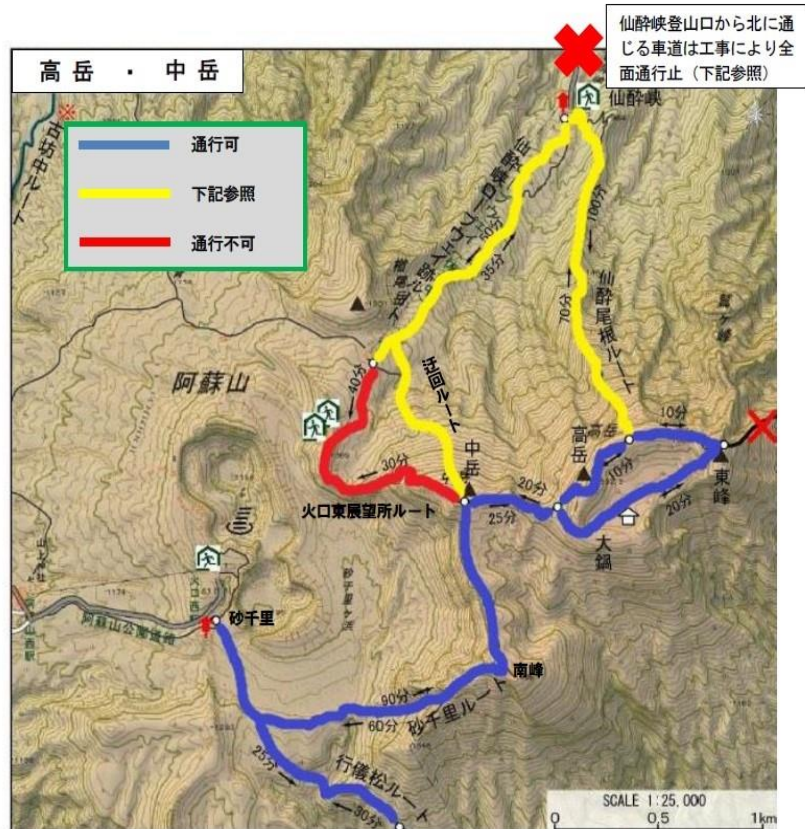
7：00 起床 8：15 ペンション発

8：45 火口西 P 着

9：00 火口西 P 発→10：30 中岳→

10：55 高岳（阿蘇山頂）→

12：10 火口西 P 下山



登山規制がやっと解除され、先ずは阿蘇山（高岳）を登ろうと5月の九州山旅を計画。規制情報を調べるも、仙酔峡コースが通行出来るのか？今一、分からない。A案（仙酔峡コース）とB案（砂千里コース）の2通りの計画を作り、現地判断で決める事にした。登山前日に宿泊したペンションのご主人に確認。『登山道自体は通行できるも、登山口に至る車道が工事の為に通行禁止。車をゲートに止め、車道を歩かれる方がいるが、安全の為歩行者も禁止の為、問題となっている。』との事で、B案の砂千里コースを選択。朝食を早い7：30にしてもらって、8時過ぎに出発。阿蘇山西駅の駐車場に8時半頃到着。『皆、歩いてる。火口西 P まで30分、歩く？』『行けるなら、上まで行って！』との妻の意見で火口西 P へ。出発準備をしようとする、登山靴がない。下の駐車場で上まで行けるか？確認している間に、“車から私の靴も降ろしたのを忘れてた！”との事。急ぎ、下の駐車場へ靴探しに戻る。何やかやとドタバタして、出発が9時となってしまった。既にガスがかかっている。天気が悪さが気にかかるが、阿蘇山だけは、片づけたと思う。急登になる手前で、地震の爪痕を見る。中岳への急な登りで汗が拭き出してくる。時折、小雨模様で雨粒が顔へ。稜線へでると風が強い。ガスで見えないが、火口側（左側）へ飛ばされない様に踏ん張って歩く。先ずは中岳へ。寒いので、写真だけ撮って高岳へ。ここも何も見えない。名古屋から来たという熟年パーティが登ってきたので、大急ぎで百名山手拭いを出して写真を撮ってもらう。『デンソー知ってるよ。面白い事、やってるね！』少し、お話ししては、そこそこに下山開始。天狗の庭も、火口見学も一切なく、“阿蘇よ、又来るわ”と思いつつ、ピートハントだけの登山であった。



の事。急ぎ、下の駐車場へ靴探しに戻る。何やかやとドタバタして、出発が9時となってしまった。既にガスがかかっている。天気が悪さが気にかかるが、阿蘇山だけは、片づけたと思う。急登になる手前で、地震の爪痕を見る。中岳への急な登りで汗が拭き出してくる。時折、小雨模様で雨粒が顔へ。稜線へでると風が強い。ガスで見えないが、火口側（左側）へ飛ばされない様に踏ん張って歩く。先ずは中岳へ。寒いので、写真だけ撮って高岳へ。ここも何も見えない。名古屋から来たという熟年パーティが登ってきたので、大急ぎで百名山手拭いを出して写真を撮ってもらう。『デンソー知ってるよ。面白い事、やってるね！』少し、お話ししては、そこそこに下山開始。天狗の庭も、火口見学も一切なく、“阿蘇よ、又来るわ”と思いつつ、ピートハントだけの登山であった。



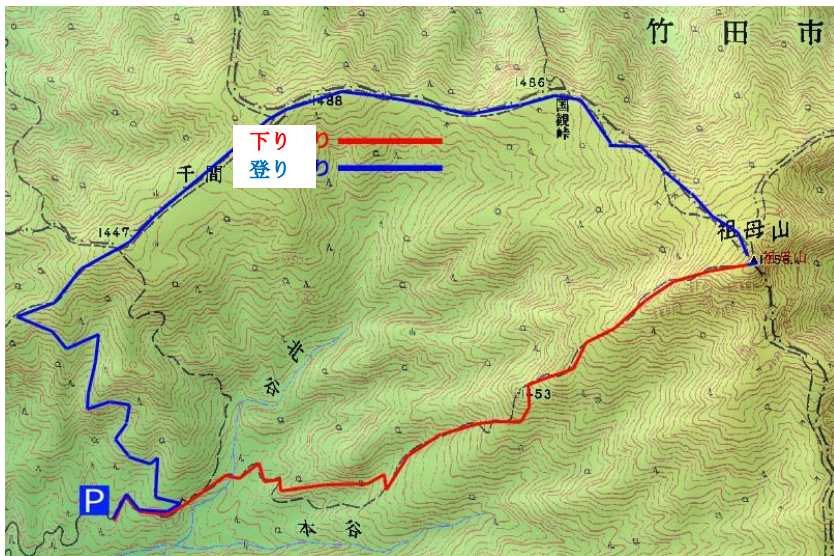
②祖母山登山報告 5/24 (木) 晴れ

■ルート；北谷登山口→千間平→茶屋場→国観峠→祖母山→
風穴→北谷登山口

メンバー；津田廣一・利栄子

<コースタイム>

4:20 起床 4:50 阿蘇 YH 発
6:15 北谷登山口着
6:30 北谷登山口発→7:20 千間平 (1本) →
8:05 国観峠 (1本) →
8:50 祖母山山頂 (15分) → (風穴) →
11:15 北谷登山口下山



昨夜、阿蘇 YH のペアレントさんより、祖母山・九重の情報を聞き込み、午前中に祖母山、そして午後には久住山へ登り法華院まで行く事にした。早朝、高千穂方面へ車を走らせる。朝食は、走らせながらお握りを1つ頬張る。走っている車も



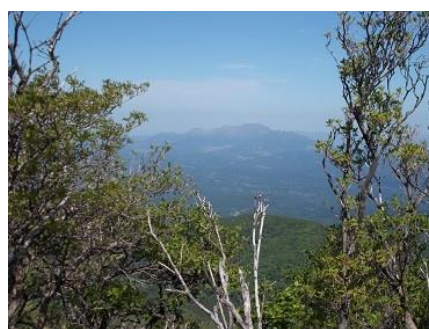
なく、予想外に早く登山口に到着。早速に準備して出発。“1日で2座か。ペースを慎重にしないとバテルかな？”と思いつつ、歩き出すや、『歩き出しは、ゆっくりで』と、妻から注文が入る。“焦るな、焦るな！”と、心の中で唱えながら、歩く。登山道は、徐々に高度を上げる感じで歩きやすい。1h弱で千間平へ。樹林の中の道を進むが、若葉が美しい。百名山との



事だが、登山者と合わない (山行中で会ったのは、登りで1人のみ)。茶屋場はわからず、いつの間にか通り過ぎていた。国観峠に至り、ひょっこりお地蔵さんが待っていた。ここから山頂までの最後の登りが、手強かった。昨日までの雨でじゅくじゅくの道で滑りやすいのと急坂がダブルで苦しめる。やっとの思いで頂上に到達。山頂は、私達だけだ。握手を交わして、お互いの写真を撮る。阿蘇、九重、由布のパノラマを楽しみながら、昼飯のお握りを頬張る。下りは、風穴コースを降る。風穴は、少し中に頭を入れるも涼しい事もなく、ガックリ。休むより、早く降りようと一気に登山口まで下山した。



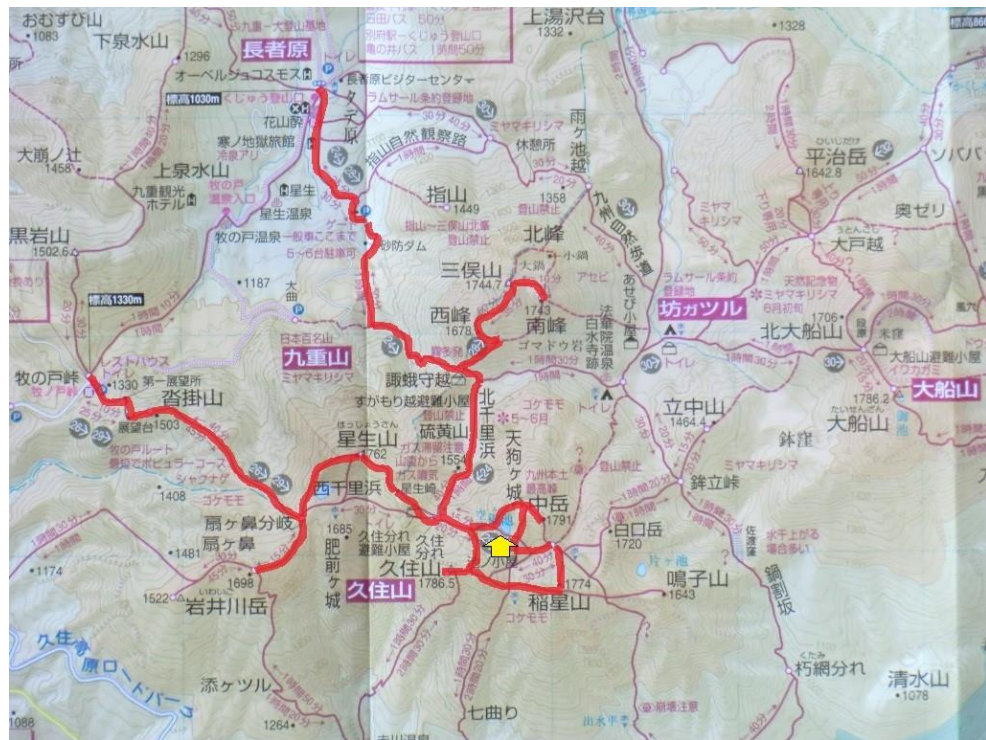
事だが、登山者と合わない (山行中で会ったのは、登りで1人のみ)。茶屋場はわからず、いつの間にか通り過ぎていた。国観峠に至り、ひょっこりお地蔵さんが待っていた。ここから山頂までの最後の登りが、手強かった。昨日までの雨でじゅくじゅくの道で滑りやすいのと急坂がダブルで苦しめる。やっとの思いで頂上に到達。山頂は、私達だけだ。握手を交わして、お互いの写真を撮る。阿蘇、九重、由布のパノラマを楽しみながら、昼飯のお握りを頬張る。下りは、風穴コースを降る。風穴は、少し中に頭を入れるも涼しい事もなく、ガックリ。休むより、早く降りようと一気に登山口まで下山した。



③九重山（久住山・平治岳）登山報告 5/24（木）～25（金） 晴れ

■ルート；

- 1日目 牧ノ戸峠登山口→扇ヶ鼻分岐→久住別れ→久住山→久住別れ→北千里浜→法華院山荘（泊）
- 2日目 法華院山荘→鉾立峠→法華院→坊がつる→大戸越→平治岳→坊がつる→雨ヶ池→長者原



メンバー；津田廣一・利栄子
 <コースタイム>

1日目

- 11：30 北谷 P（祖母登山口）発
- 13：05 牧ノ戸峠 P 着
- 13：20 牧ノ戸峠発
- 13：30 第一展望台 1本→（13：40 沓掛山）
- 14：15 1本→（14：20 扇ヶ鼻分岐）
- 15：30 久住山山頂（15分）
- 17：00 法華院山荘着

2日目

- 6：30 起床
- 7：30 法華院山荘発
- 8：05 鉾立峠（20分）
- 9：00 法華院→（9：05 坊がつる）
- 10：05 大戸越（うとんこし）1本
- 11：00 平治岳（ひいじ岳）山頂（40分）
- 12：40 坊がつる 1本
- 13：30 雨ヶ池越 1本
- 14：30 長者原下山

<<5月24日；1日目>>

祖母山から下山し、11：30 に北谷登山口を出発。急ぎ、牧ノ戸峠登山口へとって返す。昼食は、行動食を車中で食べる。13時過ぎに到着。登山準備をし、登り口を確認し出発。快晴の日の真昼の出発、いきなりの急登、風もなく照り返しの強さもあり、あまりの暑さに第一展望台の木陰でたまらず1本。気を取り直して歩き出す。ペースをダウンして我慢比べだ。下山してくる人が多い中、反対に登っていく。暑い。沓掛



山も過ぎ、アップダウンはあるものの平坦な道となり、花もチラホラ見え慰められる。扇ヶ鼻分岐への登りの途中で子供の団体パーティとすれ違い、体力的にもきつく感じて1本。この機に行動食も腹



に入れエネルギーを充填。少し、元気になって登っていく。扇ヶ鼻分岐を過ぎ、西千里浜に出ると平坦な平行移動に。久住別れからは、再び急登となるも最後の登りと必死に足を前へ進める。ようやく、久住の山頂へ。くたびれた！写真を撮って、360度のパノラマを楽しんだ。もう少し、ゆっくりしたいが、今夜の宿を目指して降りる。九州本土最高峰の中岳は、この次と断念し、急なガレ場を降り切ると、北千里浜を北へ、そして向きを西へ向けて長い長い距離を歩く。膝をがくがくする様な最後に急坂を降りきると法華院山荘へようやく到着だ。泊りの手続きをしていると疲労か？熱中症か？フラフラする。部屋へ入って休息。温泉で汗を流し、美味しいビールを飲んで生き返った。



《5月25日；2日目》



朝食をゆっくり済まし、昨日の年配夫婦のミヤマキリシマ情報に基づいて、先ずは立中山方向へ向かう。色々な花々が迎えてくれる。30分程歩いて鉾立峠へ。聞いた通りミヤマ



キリシマが咲き誇っている。上の方は咲いてないので、引き返す。再び法華院から、今満開だという平治岳を目指す。坊がつるを通り、大船への道と分けられると泥んこ道となる。やがて急登に変わっていく。しっかり汗をかいたところで大戸越に着くや、景色が一変。目の前がピンク一色だ。平



治岳上部の斜面が左側がピンク、右側がグリーンに染まっている。信じられない様な山だ。平日というのに、人、人、人だ。ここからは、狭い登山道を前の人について、登っていく（追い抜く程の幅はない）。ピンクの登山道に慰められつつ、急坂を攀じ登る。40分ぐらい足掻き続



けると頂上付近へ出るが、頂上が分からない。一面がピンクの平坦部。頂上は、平坦部を更に北へ行ったところと聞き、先ず頂上を目指した。あった！平治岳の標識だ。近くの人に写真を撮ってもらおう。頂上付近の景色に圧倒される。青空の下、一面がミヤマキリシマのピンクに覆われ、その向こうに九重連山の山々。最高の景色を眺めながらの最高の昼食とな



った。40分近く頂上付近で過ごして下山開始。登り道と下り道が違うので、地元の人に下りの降り口を教えてもらう。天気と開花状況を確認してから登ってきたとの事。下り道の右側に白のミヤマキリシマが一株だけ咲いているとの事。注意しつつ下る。あった！そして、坊がつるまで一気に下る。一休みして、長者原を目指すが、遠い。修正図のコースタイムで1.5h、軽く考えていたら手痛いしっぺ返しを食らってクタクタになって長者原に下山した。次のバスは1h後との事で、ビジターセンターで九重の四季の映像を見て、バスで牧ノ戸峠へ。

車で湯布院 YH へ。温泉で汗を流し夕食後、ホテル狩りに連れて行って貰って充実の最高の1日が終了した。



④由布岳登山報告 5/26 (土) 曇り (登山後晴れ)

■ルート；正面登山口→合野越→マタエ→東峰→マタエ→合野超→正面登山口



メンバー；津田廣一・利栄子

<コースタイム>

- 7:00 起床
- 9:00 湯布院 YH 発
- 9:15 正面登山口 P 着
- 9:30 正面登山口発→10:00 合野越
- 10:20 一本 (5分) →10:50 マタエ
- 11:20 東峰 (10分)
- 12:40 正面登山口 (下山)



昨夜の天気予報では、天候が今ひとつ。しかし、朝、目覚めると雨は降っていない。予報では、天気は回復傾向。10 時頃には晴れてくるだろうと予測し、意図的に出発をゆっくりにした。登山口に到着して、ゆっくり登山準備。小雨模様の為、カッパを着込んで出発。登山口を出ると、強い風が吹いており肌寒い。樹林の中へ入り日向岳への分岐も過ぎ、傾斜が急になってくるや暑くなってきた。雨は止んでいる。20 分程歩いた所でカッパを脱ぐ。合野越もいつか過ぎ、急傾斜の登山道を登る。ツアーパーティに道を譲ってもらい先へ行く。広い所で1



本。お腹は空いてないので水のみ補給。ミヤマキリシマをバックに写真を撮る。傾斜は徐々に急になってくる。年配の2人パーティの、『ここからが胸突き八丁だ！ ゆっくり行こう。』との声を聴きつつ、一歩づつ確実に高度を稼ぐ。“そんなに苦しくないな”と思いつつ登っていると、降りてきた2人の女性が、『この上、もの凄いい風。吹き飛ばされそう。頂上は諦めて降りる。気をつけて！』と、教えてくれる。マタエに上がる

や否や風が凄いい。身体が持って行かれそう。妻に注意を促し、急ぎカッパの上を羽織り、風の少しでも弱い所を探す。皆が東峰へ登っていく。“ツアーパーティの後に続くのは嫌だな”と、西峰の方へ進む。最初の鎖場を登ってみる。次の鎖場は長く、強風に煽られそう。迂回路らしき方へ廻りこむや、突風だ。“これは、西峰は無理”と断念。降りようとしていると、YH のペアレントさんが登ってきた。『今日は危険、止めるわ。』と一言。そそくさと降りて行った。せめて、東峰だけでも登る。頂上は誰もいない。寒く、私達もそそくさと降りて、一気に登山口へ。午後からは湯布院観光と



回っていると晴れてきた。少々、残念な1日だった。



④英彦山登山報告 5/27 (日) 晴れ

■ルート；正面登山口（銅の鳥居）→下宮→中宮→中岳（上宮；山頂）→南岳→中岳→正面登山口（下山）



メンバー；津田廣一・利栄子

<コースタイム>

- 6：30 起床
- 8：00 湯布院ホテル発
- 9：15 正面登山口 P 着
- 9：25 正面登山口発
- 9：45 下宮（奉幣殿）
- 10：00～11：00 奉幣殿にて山開き立会い
- 11：10 下宮発
- 11：40 中宮 1本（5分）
- 12：40 中岳（山頂）（30分）
- 13：15 南岳（5分）
- 13：25 中岳
- 14：40 正面登山口（下山）

予定通り 8 時にホテルを出て、登山口へ急ぐ。天気は良し。予定より早く登山口に到着して準備をしていると、白装束の人と出会う。“あの格好で登るの？”と思いつつ、挨拶を交わす。参道を登っていくと、『今日は山開きで、立会って下さい。』との事。これも何かの縁か、急ぐ山でもないのに立会っていく事にして、奉幣殿へ上がらせてもらう。私達と同じ様なハイカーも多数参加している。1h 位の式に立会い、デンソー山岳部と樅ノ木会の安全登山を心の中で祈らせてもらった。記念の日本手拭を頂き、1h 程度遅れての再出発。急な登りが続き、天候の良さも相まって結構暑い。中宮まで登り 1 本。水を補給する。中宮を過ぎると、降りてくる人が多い。上



宮（山頂）で立会った人達だろう。道いっぱいには広がり集団で降りて来られては登れない。目に余ったので、『登り優先のルールも知らないのですか？』と、皮肉ってしまった。山伏姿の人も降りてきた。山頂近くまで登ってくると、お社らしき建物が建っていた。ここが頂上だろうと、日差しを避けてお社の陰の所に廻って、昼食。お握りと行動食を食べる。山頂の標識がないのかな？と、北の方へ行ってみると立派な標識発見。周りの人と写真の撮りあいっこをする。暑いのと、時間がないので、周回コースを止めて、ピストンに変更。南岳だけは近いので行ってみる事にしたが、小さな祠があるだけだった。レンタカーも今日、博多で返す予定の為、来た道を急ぎ下山した。博多の居酒屋で、今回の山旅の打上をやって 1 日が終了した。



👉南岳のお社
👈山頂の風景